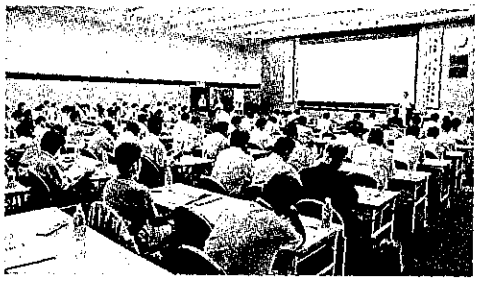
佐賀建設新聞

発行所
株式会社 建設新聞社
〒849-0301
小城市牛津町乙柳1145-7
TEL 0952-66-5750（代）
FAX 0952-66-5751
購読料 月額5,775円（税込）
毎週火・木・土曜日発行
日本専門新聞協会会員
ホームページ
http://www.kensetsunews.co.jp
e-mailアドレス
kssaga@lime.ocn.nejp

受発注者連携から温暖化対策まで

幅広いテーマで技術講習会

ミラクルソル協会



ガラス廃材の建設資材などへの再利用を推進しているミラクルソル協会（原裕理事長）は22日、第16回技術講習会を名古屋市内で開いた。国や地方自治体、建設会社、コンサルタント会社などから約150人が参加。ミラクルソル工法の最新情報のほか、公共事業での発注者と受注者の連携から、地球温暖化によって迫られる防災事業まで、幅広いテーマの講演を聞いた＝写真。

国土交通省中部地方整備局企画部の岡田昌之技術開発調整官が「公共事業はパートナーシップから」をテーマに特別講演した。岡田氏は、発注者と受注者、地元の利害関係者の信頼関係づくりの重要性を、自らのこれまでの体験をまじえながら話した。

また、地球温暖化と大災害増加の関連について佐賀大学の林重徳名誉教授が講演した。林氏は、温暖化による氷河の融解による大陸地殻の荷重減と、海水量の増加による海洋地殻への荷重増が、火山活動の活発化やプレート境界での地震の増加につながると指摘。平安時代など温暖期に連続した、津波を伴う大地震などを踏まえ、今後、全国規模で海面上昇を前提とした防災対策に取り組んでいく必要を訴えた。

多目的材料としてのミラクルソルの活用技術については、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之教授が説明した。ミラクルソルは、空きビンなどのガラス廃材から作る、多孔質間隙構造を持つ軽量材料。吸水性や保水性に優れる。荒木氏は、ミラクルソルによる水質浄化と、資源としてのリンの回収について詳しく話した。